三　調査方法

第一項　新生児体重ノ年次的推移ノ観察

第一回調査ト同様東京ト大阪ニ於ケル新生児ニ就テ第一回調査以後即チ昭和十七年十月一日ヨリ十八年九月末日マデノ資料ヲ得テ、十七年十月一日ヨリ十二月末日マデノモノハ之ヲ昭和十七年度トシテ第一回調査成績ニ加ヘ、昭和十八年度ハ九月末日マデノモノヲ集計シタ。從ツテ本調査ニ於ケル十七年度ノ成績ハ第一回調査成績ノ同年次ノモノト多少異ル所ガアル。

栄養状態判定ノ示標トシテハ、新生児ノ出生後一週間以内ニ測定シタ体重デアル。第二ニ新生児体重ノ分布ニハ相当ノ広イ範囲ガアルノデ、之ヲ甲乙二群ニ区分シテ観察シタ。

甲群―体重二〇〇〇―三八〇〇瓦ノ範囲（総数ノ約九五％ニ当ル）

乙群　体重一〇〇〇瓦以上ノ総数（総数ノ約一〇〇分ノ一ニ当ル）

カクシテ出生児体重ヲ甲乙二群ニ就テ、性別、地域別ニ検討シテ其ノ年次的推移ヲ観察シタ。

第二項　妊婦体重ノ年次的推移ノ観察

妊婦ノ体重ハ資料ノ得ラレタ東京ニ於ケルモノノミヲ対象トシテ調査ヲ行ツタ。期間ハ昭和十二年ヨリ十八年ニ至ル七年間ノ年次的推移ヲ観察シタ。

第三項　妊婦体重ト其ノ出生児体重ノ年次的推移ノ観察

母子ノ間ノ体重ノ関係ヲ観察シ、更ニ年次的推移ヲモ検討シタ。本調査

ノ対象ハ東京ノモノデアリマス、昭和十二年二月一日ヨリ昭和十八年九月末日ニ至ル七年間ニ亘リ其ノ年次的推移ヲ観察シタ。

四、調査成績

第一項、新生児体重ノ年次的推移

イ、体重群別ニ観タル新生児体重ノ年次的推移

新生児ヲ其ノ体重ニヨリ甲群（二〇〇〇一一三八〇〇瓦）ト乙群（一〇〇〇以上総数）トニ区分スルニ、各年共甲群ニハ総数ノ約九五%ガ含マレ、乙群ニハ約一〇〇%ガ含マレル。例数ハ甲群ハ東京ニ於テハ男児一七、六一四名、女児一六、九二五名、又乙群ハ男児一八、五五三名、女児一七、七一四名デアル。大阪ニ於テハ甲群ハ男児六、七四八名、女児六、二一四名、又乙群ハ男児七一七名、女児六五一七名デアル。

西群ニ就テ新生児体重ノ年次的推移ヲ比較スルニ、東京ニ於テハ男児ハ最初ノ十一年、十二年、十三年及ビ十四年ノ四年間ノ傾向ハ全ク同一デアリ、十五年ニ至リテハ多少平行セザル年次モアルガ、両群共ニ順次増加ノ傾向ニアル。

大阪ニ於テモ両群ニ於テ、男女共ニ全ク同一ノ傾向ヲ年次的推移ノ上ニ見ル。結局両群ノ間ニ著シイ差異ヲ見ナイ。

体重群別新生児数及ビ総数ニ対スル各百分率（東京）

年次	性別	総数	一〇〇〇一瓦以上（乙群）実数	百分率	二〇〇〇一—三八〇〇瓦（甲群）実数	百分率
昭和一一年	男	一八五九	一八五三	九九、六	一七五九	九四、六
	女	一七七。	一七六六	九九、七	一六八一	九四、九
一二	男	二五三二	二五三二	一〇〇、〇	二三八〇	九三、九
	女	二三六八	二三六八	一〇〇、〇	二二四〇	九四、五
一三	男	二四八八	二四八八	一〇〇、〇	二二六六	九五、〇
	女	二四六七	二四六七	一〇〇、〇	二三四九	九五、二
一四	男	三、一〇七	三、一〇七	一〇〇、〇	二九五二	九四、八
	女	二九九四	二九九四	一〇〇、〇	二八四〇	九四、八
一五	男	二四二八	二四二三	一〇〇、〇	二二七六	九三、九
	女	二二一七	二二一七	一〇〇、〇	二一二一	九五、六

体重群別新生児数及ビ総数ニ対スル各百分率（大阪）

年次	性別	総数	実数	百分率	実数	百分率
			一〇〇〇瓦以上（乙群）		二〇〇〇瓦～三八〇〇瓦（甲群）	
昭和一〇年	男	五三七四六三	五三五四五七	九九、六	四九九四三二	九七、九
	女	五三七四六三	五三五四五七	九九、六	四九九四三二	九七、九
一一	男	七八九七〇八	七八九七〇三	九九、二	七三七六七三	九三、四
	女	七八九七〇八	七八九七〇三	九九、二	七三七六七三	九三、四
一二	男	一〇六二九九三	一〇六二九三三	九九、九	九九一九四六一	九三、三
	女	一〇六二九九三	一〇六二九三三	九九、九	九九一九四六一	九三、三
一三	男	一〇〇七九一〇〇二	一〇〇七八一〇〇二	九九、八	一〇〇四九六〇	九三、〇
	女	一〇〇七九一〇〇二	一〇〇七八一〇〇二	九九、八	一〇〇四九六〇	九三、〇
一四	男	九三五八五一	九三五八五〇	一〇〇、八九九、八	八九四七九七	九五、六
	女	九三五八五一	九三五八五〇	一〇〇、八九九、八	八九四七九七	九五、六
一五	男	九七九八八六	九七八八八六	九九、八一〇〇、〇	九一四八一二	九三、三九一、六
	女	九七九八八六	九七八八八六	九九、八一〇〇、〇	九一四八一二	九三、三九一、六
一六	男	九六八八五五	九六七八五五	九九、八九九、八	九一四八一三	九四、四九五、〇
	女	九六八八五五	九六七八五五	九九、八九九、八	九一四八一三	九四、四九五、〇
一七	男	五四四五一三	五四四五一三	一〇〇、〇一〇〇、〇	五一九四九四	九五、四九六、二
	女	五四四五一三	五四四五一三	一〇〇、〇一〇〇、〇	五一九四九四	九五、四九六、二
一八	男	二九一三〇〇	二八九二九九	九九、三九九、六	二二六二八七	九四、八九五、六
	女	二九一三〇〇	二八九二九九	九九、三九九、六	二二六二八七	九四、八九五、六
計	男	一八五五三一七七一九	一八五五三一七七一九	一〇〇、〇一〇〇、〇	二九二六二九〇五	九五、四九六、六
	女	一八五五三一七七一九	一八五五三一七七一九	一〇〇、〇一〇〇、〇	二九二六二九〇五	九五、四九六、六
一六	男	三〇六五三〇〇六	三〇六五三〇〇六	一〇〇、〇一〇〇、〇	二九二六二九〇五	九五、四九六、六
	女	三〇六五三〇〇六	三〇六五三〇〇六	一〇〇、〇一〇〇、〇	二九二六二九〇五	九五、四九六、六
一七	男	二三三五二二〇二	二三三三二二〇二	九九、九一〇〇、〇	二二三四二一一八	九五、六九六、一
	女	二三三五二二〇二	二三三三二二〇二	九九、九一〇〇、〇	二二三四二一一八	九五、六九六、一
一八	男	七五二六九五	七五二六九四	一〇〇、〇九九、八	七二一六七一	九五、八九六、五
	女	七五二六九五	七五二六九四	一〇〇、〇九九、八	七二一六七一	九五、八九六、五

性別ニ親タル新生児体重ノ年次的推移

両群ノ間ニ大差ナキヲ知ツタノデ、本項デハ甲群（二、〇〇〇～三八〇〇瓦）ニ就テノミ観察スル。第一回調査ニ於テ十二年ガ特ニ大デアツタノデ、東京ニ於テハ十一年ヲ、大阪ニ於テハ十一年及ビ十年ヲ加ヘテ其間ノ関係ヲ観察スルニ、東京ニ於テハ男女共ニ十一年ハ十二年ヨリモ小デアリ、大阪ニ於テハ男児ハ十一年ハ十二年ヨリモ大デアルガ、十年ニ於テハ十一年ヨリモ亦十二年ヨリモ小デアル。又女児ニ於テハ十一年ハ十二年ヨリモ小デアリ、又十年ハ十一年ヨリモ小トナリ、十年ノモノハ十三年以後ノモノト殆ンド等シイ。結局十二年ハ何等特異ノモノデハナイ。

年次的推移ヲ全年次ヲ通ジテ観ルニ、東京ノ男児ハ十二年ヨリ十三年ニ至リ減少シ、女児ハ十五年マデ減少シ以後ハ男女共ニ恢復シテ増加スルガ如キ傾向デアルガ、女児ニ於テハ十二年ヲ最大トシテ漸次減少スル傾向ニ

アル。大阪ノ男児ハ十一年ヲ最大トシテ、十三年マデ順次小トナリ、十四年ヨリ十七年マデ大体増加ノ傾向ニアルモ、十八年ニ至リ急激ニ減少シ、十八年ノモノハ最大ノ十一年ヨリモ八〇瓦、又十七年ヨリモ七〇瓦小デアル。女児ハ十八年度ヲ最大トシテ以後ハ大体減少ノ傾向ニアル。其間十六年ノミ前年ニ比シテ僅カニ増加シテヰル。十八年トノ差ハ最大ノ十二年トハ一〇〇瓦、十七年トハ一〇瓦デアル。

全年次ヲ通ジテ女児ノ体重ハ男児ノソレヨリ小デアリ、年次的ニ観タ差ノ最小ハ東京ニ於テハ十三年ノ三〇瓦、大阪ニ於テハ同年ノ一〇瓦、又最大ハ東京ニ於テハ十五年ノ九〇瓦、大阪ニ於テハ十七年ノ一一〇瓦デアル。

八、地域別ニ観タル新生児体重ノ年次的推移

東京ト大阪トニ就テ地域別ニ観ルニ、東京ニ於テハ男女共ニ十二年ガ最大デアツテ、男児ハ其後漸減シテ十八年ニハ十二年トノ差ハ僅カニ〇瓦ト

ナリ、女児ハ十二年以後略ボ漸減シテ居ルニ過ギズ、大阪ニ於テハ男児ハ一貫シテ殆ンド十三年マデ順次減少シ、以後ハ十七年マデ順次増加スルガ、十八年ニ至リ東京ト反対ニ著明ニ減少スル。女児ニ於テハ東京モ大阪モ共ニ十二年ガ最大デアツテ以後ハ順次減少ノ傾向ニアル。十七年以後ニ於ケル女児ノ減少ハ東京ニ比シテ著シイ。

第四表　新生児体重ノ年次的推移

（東京ノ分ハ市ノミノ統計、大阪ハ市部郡部ノ合計）

年次	性別	東京			大阪		
		例数	平均体重（瓦）	標準偏差	例数	平均体重（瓦）	標準偏差
明治四十一年	男	1,543	2,922.4±10.7	455.2	1,577	2,930.4±20.0	457.1
	女	1,466	2,872.5±10.8	457.4	1,500	2,820.0±20.2	452.0
12	男	1,532	2,922.4±10.2	455.3	1,550	2,930.0±20.5	455.5
	女	1,472	2,890.0±10.3	455.2	1,478	2,840.0±20.5	456.0
13	男	1,623	2,922.0±10.1	454.7	1,730	2,930.0±19.7	455.1
	女	1,547	2,870.0±10.9	455.1	1,600	2,860.0±19.5	454.9
14	男	1,507	2,950.0±10.1	455.1	1,595	2,955.0±19.1	453.4
	女	1,478	2,890.0±10.2	452.2	1,590	2,890.0±19.4	452.0
15	男	1,423	2,922.0±10.4	454.1	1,552	2,920.0±19.7	453.1
	女	1,317	2,870.0±10.9	451.9	1,512	2,870.0±19.9	452.2

16	男	2465	2930 ± 7.9	442.3	2726	2960 ± 6.8	362.6
	女	2406	2870 ± 7.8	421.8	2665	2880 ± 6.8	369.8
17	男	2333	2965 ± 9.0	437.4	2234	2960 ± 9.7	368.0
	女	2202	2860 ± 9.0	424.6	2118	2880 ± 9.9	364.0
18	男	352	2970 ± 15.7	433.2	321	2970 ± 13.6	345.2
	女	294	2860 ± 15.5	408.6	271	2870 ± 13.6	352.8

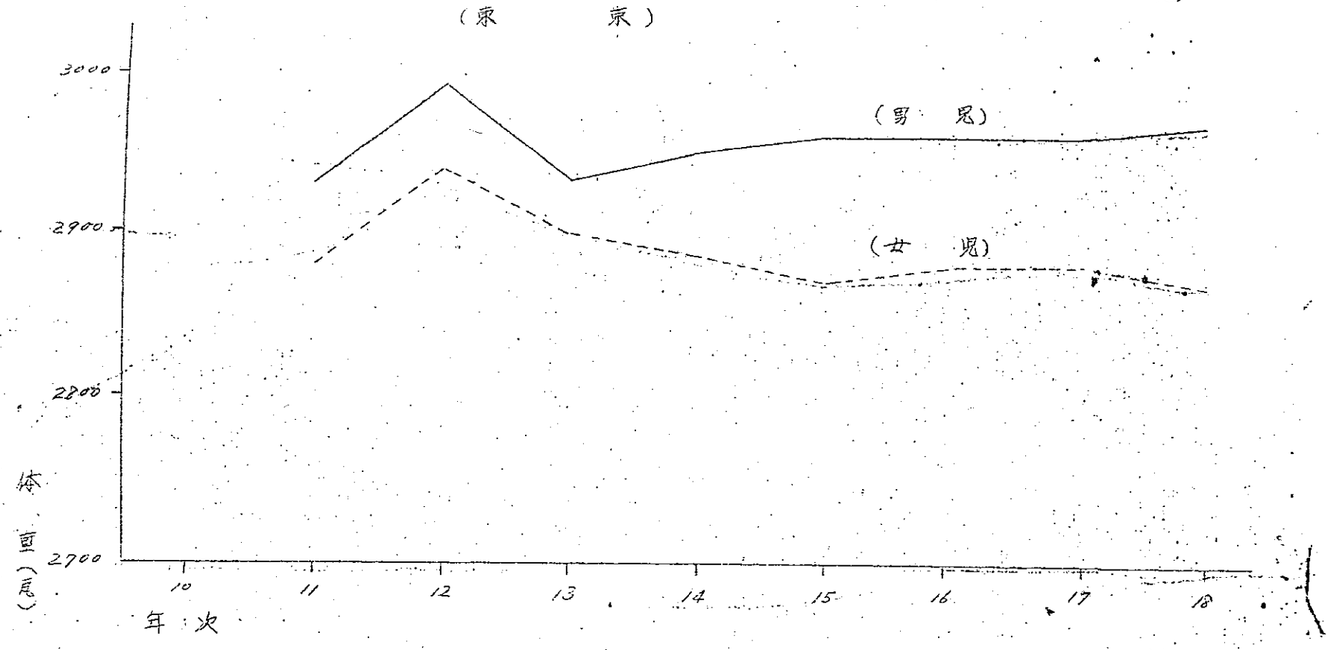
新生児体重ノ年次的推移

（大　阪）

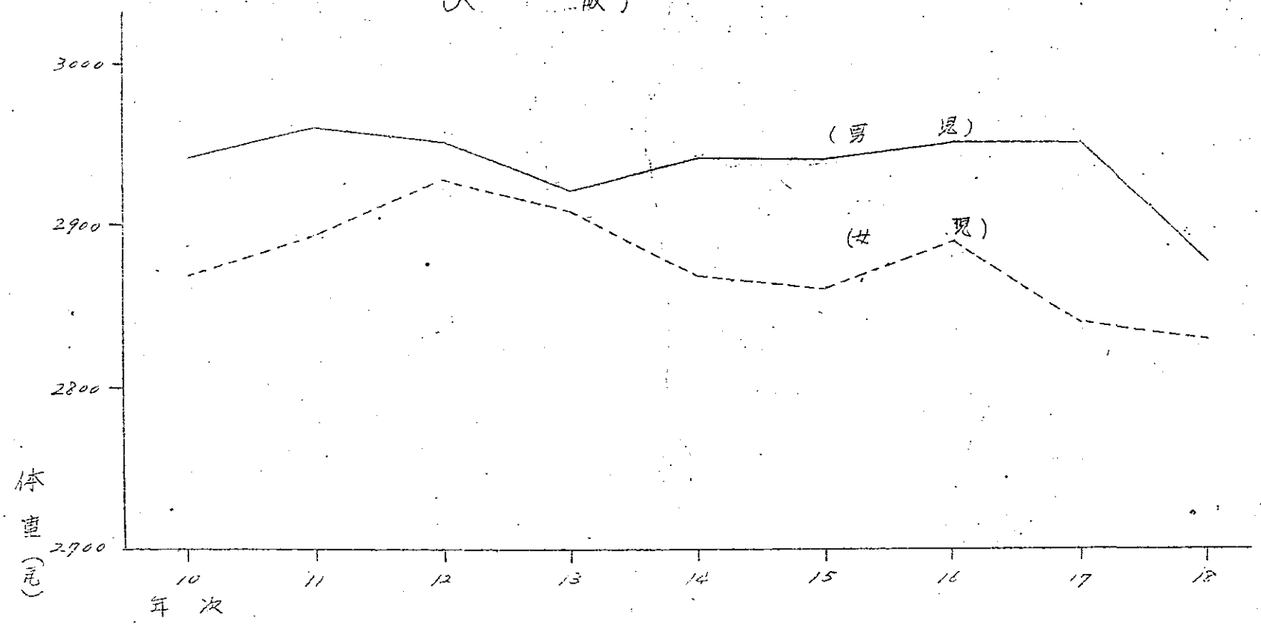
年次	性別	1001 瓦以上（乙群）			2001～3800瓦（甲群）		
		例数	算術平均（瓦）	標準偏差	例数	算術平均（瓦）	標準偏差
昭和10年	男	535	2945 ± 20.4	472.8	479	2940 ± 16.5	362.6
	女	457	2850 ± 21.1	452.0	432	2870 ± 17.8	371.0
11	男	489	2950 ± 17.0	475.6	437	2960 ± 13.5	367.2
	女	403	2860 ± 17.3	457.8	393	2890 ± 14.1	367.8
12	男	1062	2940 ± 14.4	469.6	971	2950 ± 12.0	380.2
	女	933	2910 ± 16.4	472.0	941	2930 ± 12.4	383.8
13	男	1078	2890 ± 14.7	483.7	[illegible]	2920 ± 12.1	385.2
	女	1021	2880 ± 14.9	476.2	960	2910 ± 12.2	380.0
14	男	935	2920 ± 14.5	444.4	894	2940 ± 12.5	373.6
	女	850	2850 ± 16.1	471.4	797	2890 ± 13.3	376.8
15	男	779	2910 ± 15.7	492.5	714	2940 ± 12.6	383.6
	女	726	2830 ± 16.9	505.1	712	2860 ± 13.2	377.3
16	男	967	2940 ± 14.6	454.4	918	2950 ± 13.1	367.6
	女	855	2850 ± 15.5	455.4	819	2890 ± 13.0	370.4
17	男	944	2940 ± 12.7	437.0	819	2950 ± 11.8	369.8
	女	813	2860 ± 13.0	431.2	794	2840 ± 12.1	372.4
18	男	237	2950 ± 25.5	434.6	216	2980 ± 22.0	366.2
	女	222	2890 ± 25.0	433.6	227	2930 ± 21.7	319.2

新生児体重ノ年次的推移曲線（甲群ー体重 2001～3800瓦）

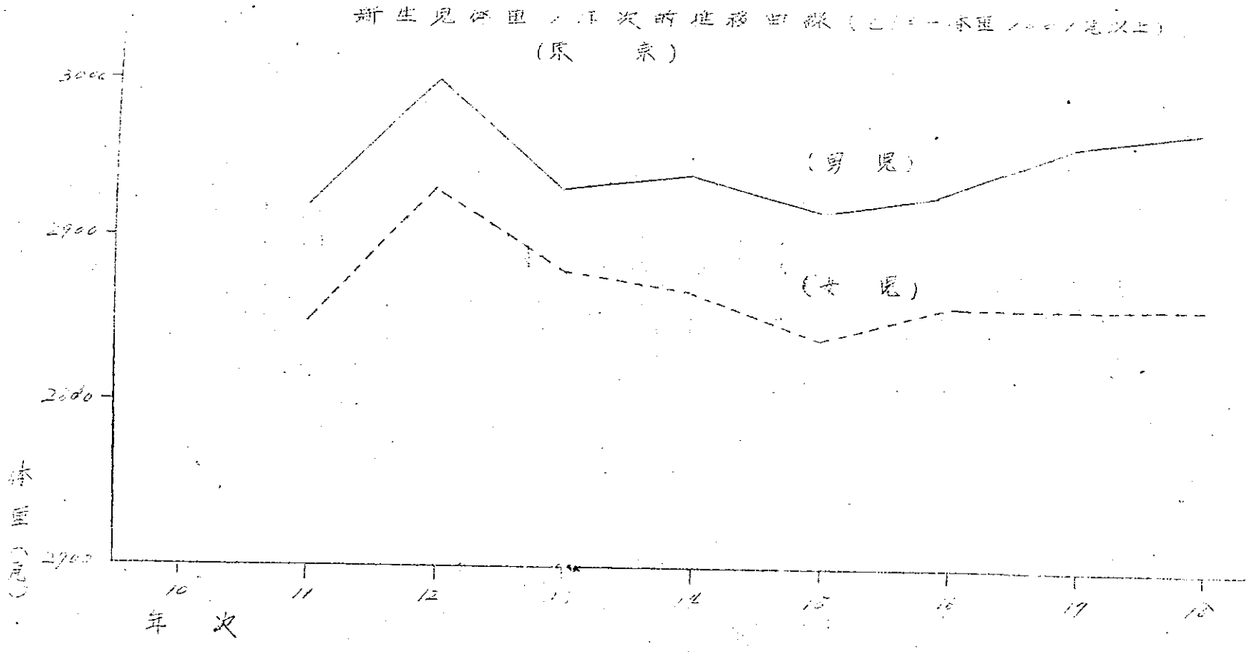
（東　京）



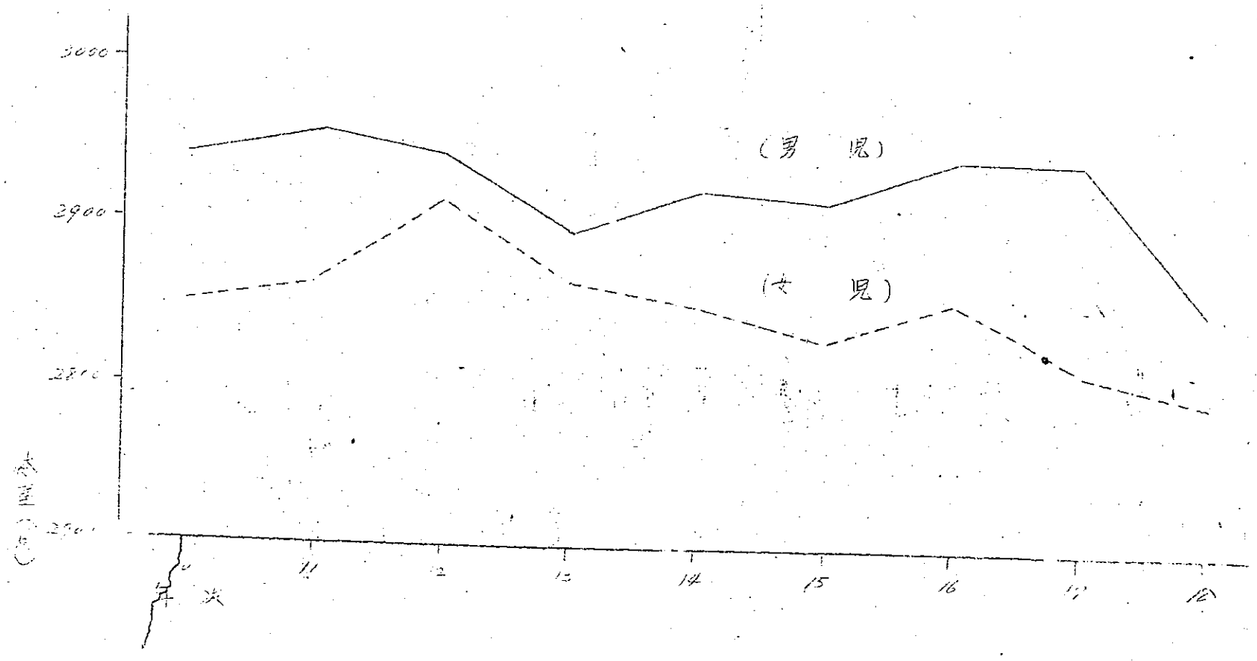
新生児体重ノ年次的推移曲線（甲群ー体重2001～3800瓦）
（大　　阪）



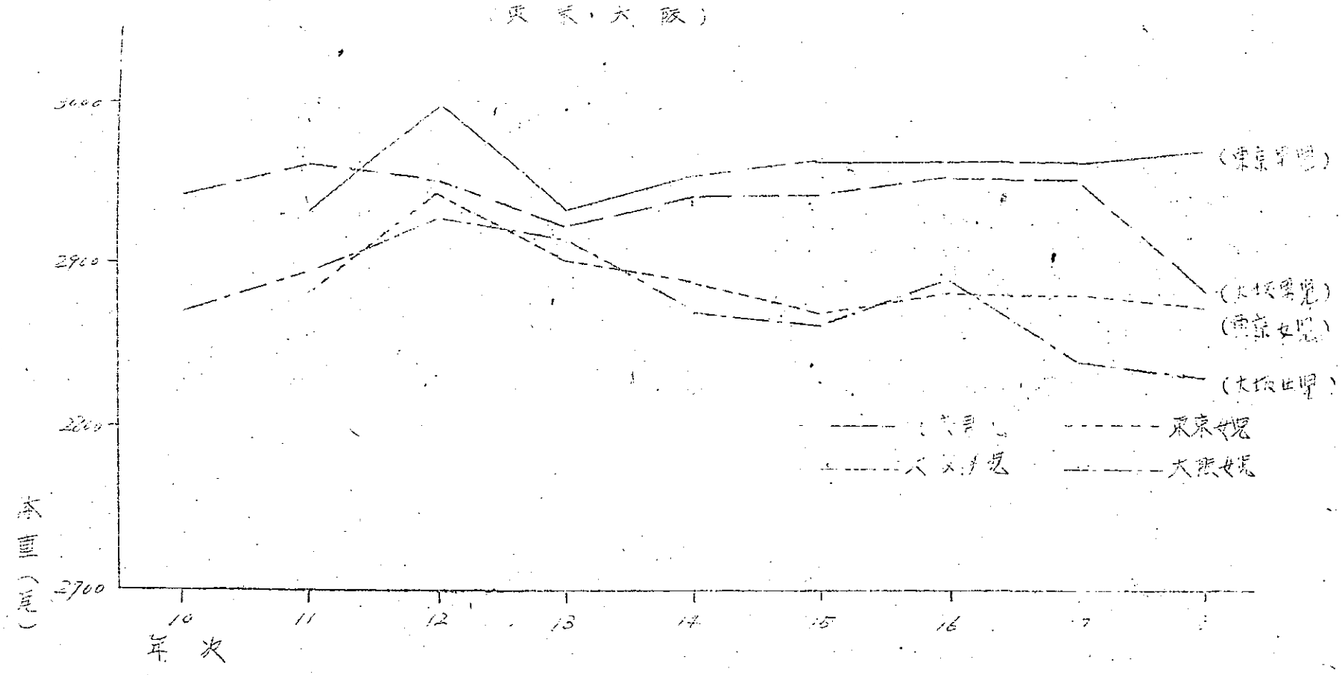
新生児体重ノ年次的推移曲線（乙群ー体重2001瓦以上）
（東　　京）



新生児体重ノ年次的推移曲線（乙群ー体重1001瓦以上）
（大　阪）



新生児体重ノ年次的推移曲線（甲群）
（東京・大阪）



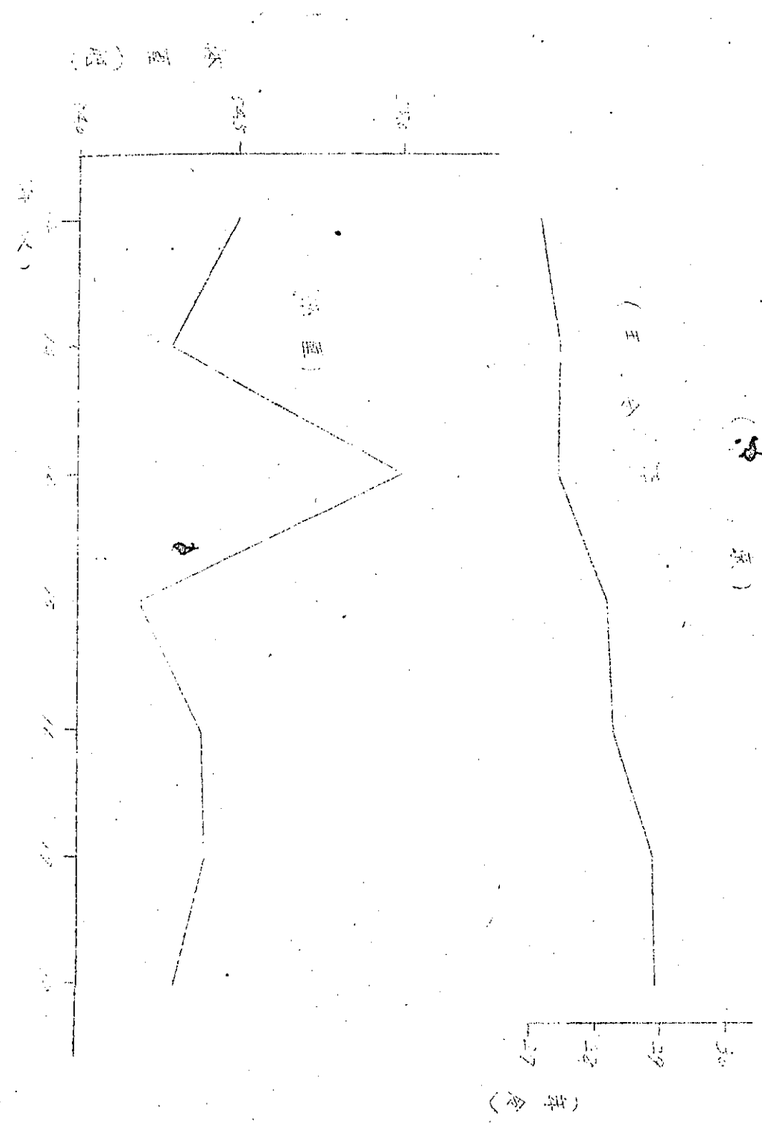
第二項　妊婦体重ノ年次的推移

妊婦体重ノ年次的ノ資料ハ得難ク、第一回調査ニ於テハ一年間ノモノノ
[illegible]ヲ報告シタガ、本調査ニ於テハ東京ニ於テ昭和十二年ヨリ十八年ニ
至ル資料ヲ得テ、之ガ年次的観察ヲ行ツタ。全年次七年間ヲ通ジテ昭和十
二年ノモノガ特ニ大デアルガ、其ノ前後ノ年次ノ間ニハ殆ンド差ガナイ。
特ニテ最大ノ昭和十四年ハ五五、〇四瓩、最小ノ十三年ハ五四、〇四瓩デアツ
テ其差ハ一瓩デアル。

尚本調査ニ於テハ妊婦ノ年令ノ各年次毎ノ平均値ヲ算出シタ。妊婦ノ年
令ニハ大差ナク、最大ハ十二年ノ二七、一歳、最小ハ十七年及ビ十八年ノ
二八、九才デアツテ、其差ハ一、八歳デアル。尚全年次ヲ通ジテ妊婦年令
ハ二七歳ヨリ三〇歳ノ間ニアル。

第一表　妊婦年令別体重

年次	年令	人数	少	平均体重	多	平均身長
昭和12年	27	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
13	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
14	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
15	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
16	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
17	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]



第二項　妊婦体重ト其ノ出生児体重ノ年次的推移

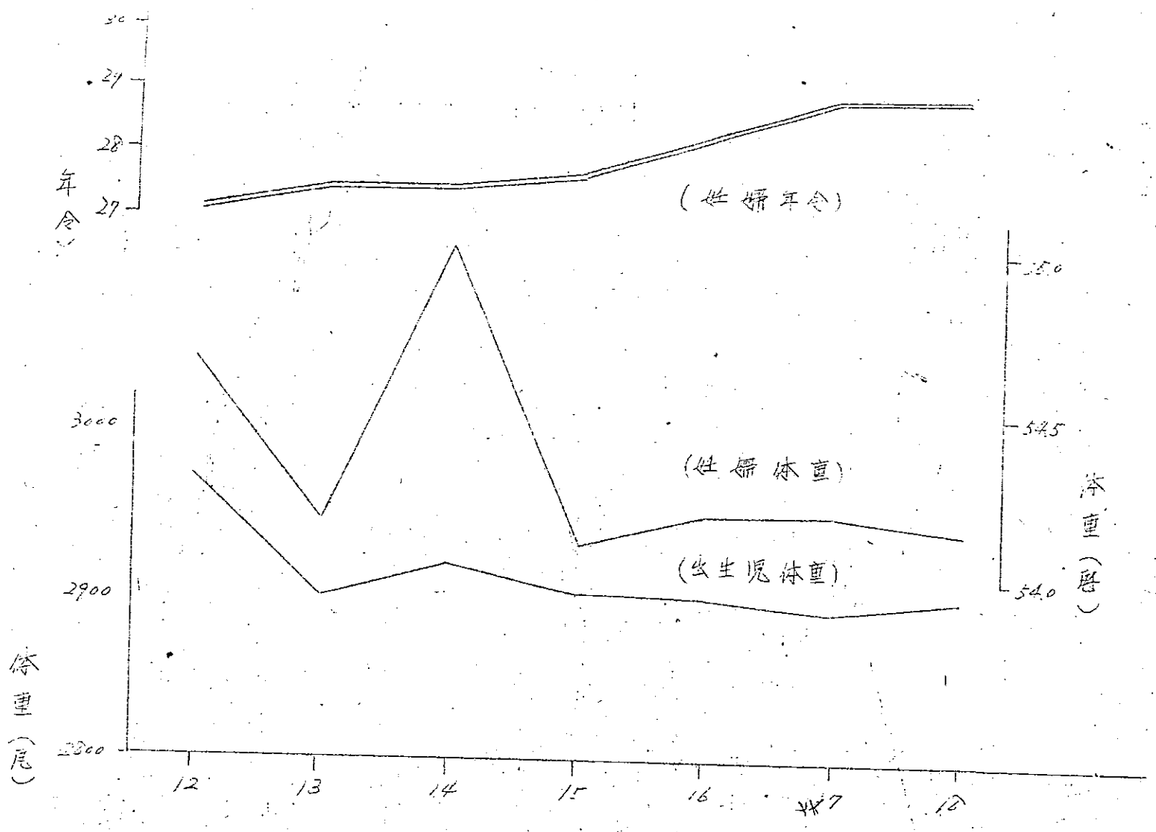
妊婦体重ト前一妊婦ヨリノ出生児ノ体重ノ年次的推移ヲ関係スベキ資料ハ東京ニ於テノミ昭和十二年ヨリ十八年ニ至ル七年間ノモノガ得ラレタ。年次的ニ観タ妊婦及ビ出生児体重ノ平均値ヲ比較スルニ、大体ニ於テ並行スルモ完全ニハ一致シナイ。年次的ニハ十二年ヨリ十五年マデハ並行スルモ、十六年以後ハ多少ノ不一致ガアル。又妊婦体重ノ年次的動揺ト出生児体重ノソレトヲ比較スルニ妊婦ノ方ガ大デアル傾向ガアル。

清水調査ニ於ケル妊婦ノ年令ハ各年次ニ於テ大差ナク、最大ハ十七年及ビ十八年ノ二八、九歳、最小ハ十二年ノ二七・一歳デアル。又全例ヲ通ジテ妊婦年令ハ二七歳ヨリ三〇歳ノ間ニアル。

妊婦体重ト其ノ出生児体重ノ年次的推移

年次	例数	妊婦年令		妊婦体重(瓦)		出生児体重(瓦)	
		算術平均	標準偏差	算術平均	標準偏差	算術平均	標準偏差
昭和12年	1337	27.1 ±0.14	5.13	54.58±0.16	6.12	2970 ±12.4	458.0
13	1415	27.4 ±0.13	5.07	54.38±0.16	6.41	2905.2±12.0	452.0
14	1439	27.4 ±0.13	5.19	55.04±0.16	6.40	2919.4±11.7	458.0
15	1265	27.7 ±0.13	4.89	54.28±0.16	5.80	2900 ±5.9	426.4
16	4140	28.3 ±0.07	5.07	54.46±0.09	6.10	2890.4±7.4	432.0
17	3363	28.9 ±0.08	5.28	54.44±0.10	6.14	2922.8±11.1	452.4
18	1439	28.9 ±0.13	5.10	54.30±0.15	6.04	2922.8±11.1	423.4

妊婦ノ年令体重並ニ其ノ出生児体重ノ年次的推移曲線
（東京）



五、總括

昭和十七年ニ於テ妊婦ノ栄養現況ニ関スル第一回調査成績ヲ報告シタガ其後ノ推移ヲ知ラムトシテ第二回調査ヲ実施シテ次ノ如キ成績ヲ得タ。

二、調査方法トシテハ次ノ三項目ニ就テ体重ノ年次的推移ヲ観察シタ。

(一) 新生児体重

(二) 妊婦体重

(三) 妊婦体重ト其ノ出生児体重

三、新生児体重ノ年次的推移ニ就テハ、東京及ビ大阪ニ於ケル中産以下ノ妊婦ヨリノ新生児ニシテ、東京ニ於テハ昭和十一年ヨリ十八年ニ至ル八年間ニ亘リ三六、二六七例、大阪ニ於テハ昭和十年ヨリ十八年ニ至ル九年

間ニ亘リ一三、六九四例ニ就テ行ヒ次ノ如キ成績ヲ得タ。

(一) 体重群別ニ区分シテ新生児体重ヲ二、〇〇〇～三八〇〇瓦ノ範囲ニアルモノヲ甲群トシ、一〇〇瓦以上總数ヲ乙群トシテ、其ノ年次的推移ヲ比較スルニ其間ニ大差ナイ。

(二) 新生児体重ノ年次的推移ヲ性別ニ観ルニ、東京ニ於テハ昭和十二年ヲ最大トシテ男児ハ十三年ニ於テ減少スルモ、十四年以後順次除々ニ増加シテ十二年ニ近寄リツヽアル。女児ハ十五年マデ減少ヲ続ケ、其後ハ徐々ニ増加スルモ全年次ヲ通ズレバ、十二年以後徐々ニ減少ノ傾向ニアル。大阪ニ於テハ男児ハ十一年ヲ最大トシテ十三年マデハ順次減少スルモ其後十七年マデハ順次増加シテ、十一年ノモノニ近寄リツヽアッタガ、十八年ニ至リ急激ニ減少シテ最小トナリ、最大ト最小トノ差ハ八〇〇瓦デアル。

大阪ノ女児ニ於テハ昭和十二年ヲ最大トシテ、以後十八年ニ至ルマデ順次減少ノ傾向ヲ辿リ、最小ノ十八年ト最大ノ十二年トノ差ハ一〇〇〇見デアル。

(三) 新生児体重ノ年次的推移ヲ性別ニ観ルニ、全年次ヲ通ジテ男児ハ女児ニ優ル。

東京ニ於テハ男女ノ間ニ殆ンド差ハナイガ、唯十八年ニ於テ男児ハ稍増加スルガ女児ハ稍減少スル。

大阪ニ於テハ男児ハ十七年マデ殆ンド年次的差異ヲ見ナイガ、十八年ニハ急激ニ減少シ、女児ハ十二年ヲ最大トシテ以後順次減少シ、十七年以後ハ急減スル。

併シテ十二年ト十八年トノ差ハ、東京ニ於テハ男児ハ二〇〇見、女児ハ七〇〇見、大阪ニ於テハ男児ハ七〇〇見、女児ハ一〇〇〇見デアル。

(四) 新生児体重ヲ地域別ニ観ルニ、東京大阪共ニ男児ニ於テハ全年次ヲ通ジテ殆ンド不変デアルガ、ハ但シ大阪ノ男児ハ十八年ニ至リ急激ニ減少スル。女児ニ於テハ東京大阪共ニ、十二年ヲ最大トシテ以後十八年ニ至ルマデ順次減少ノ傾向ニアル。

四、妊婦体重ノ年次的推移ヲ東京ニ於テ昭和十二年ヨリ十八年ニ至ル七年間ニ亘リ、一四三九八例ニ就テ観ルニ、十四年ニ於テ稍大デアルモ其ノ前後ヲ通ジテ著変ガナイ。最大ノ十四年ト十八年トノ差ハ〇・七四瓩デアル。

五、妊婦体重ト其ノ出生児体重トノ年次的推移ヲ東京ニ於テ昭和十二年ヨリ十八年ニ至ル七年間一四、二九八例ニ就テ観ルニ、全年次ヲ通ジ両者ノ間ニ概ネ並行ヘル傾向ガアル。尚妊婦（母）ノ体重ノ年次的動揺ト出生児（子）ノソレトヲ比較スルニ、妊婦ノ方ガ大デアッテ出生児ハ小サク動揺ヲ不スモノヤウデアル。

結論

一、新生児ノ栄養状態ヲ体重ニヨリテ年次的ニ観察スルニ、東京ニ於テハ著シク変化ヲ見ナイ。大阪ニ於テハ十七年マデハ著シイ変化ヲ見ナイガ、十八年ニ至リ急減シタ。

二、東京ハ東京大阪共ニ十二年以来順次徐々ニ減少スル傾向ニアルガ、大阪ノ女児ハ十七年ヨリ急減シツヽアル。

三、妊婦ノ栄養状態ヲ体重ニヨリ年次的ニ観察スルニ、著シイ変化ハナイ。

近年ニ至リ僅カニ減少スルニ過ギナイ。

三、妊婦（母）ト其ノ出生児（子）トハ相互ニ平行スル変化ヲノヽヤウデアル。

其ノ三　都市給料生活者ノ栄養状態現況ニ関スル調査

体重ヲ通ジテ観タル

目次

一、調査方針
二、調査對象
第一項　國民學校教員
第二項　會社員
第三項　鐵道職員
三、調査方法
四、調査成績
第一項　性別ニ觀タル体重ノ年次的推移
第二項　年令的ニ觀タル体重ノ年次的推移
第三項　地域的ニ觀タル体重ノ年次的推移
第四項　職種別ニ見タル体重ノ年次的推移
第五項　体重年次的推移ノ年次別ノ検討
五、綜合
結論

一、調査方針

昭和十七年ニ於テ都市給料生活者体重ノ年次的推移ヲ調査シテ報告シタ。本調査ハ第二回調査トシテ同一地域ニ於ケル同一対象ニ就イテ第一回以後ノ推移並全調査期間ヲ通ジテノ観察ヲ行ツタ。都市給料生活者トシテハ第一回調査ト同様國民學校教員、銀行會社員、及ビ鉄道職員ヲ対象トシテ廣ク全國都市ノ資料ニ依リ調査ヲ実施シタ。

二　調査對象

調査ノ対象ハ國民學校教員、會社員及ビ鉄道職員ヘ事務ニ從事スル者ノミノ三種デアッテ、昭和十四年ヨリ昭和十八年ニ至ル五年間同一職域ニ勤務シ、且ツ同一都市ニ居住スル者デアル。対象ノ居住スル都市トシテハ、國民學校教員ハ札幌、仙台、金沢、東京、名古屋、大阪、廣島及ビ福岡ノ八都市デアッテ、コノ中東京都ト大阪市トニ於テハ更レル型ノ二區ヲ選ビ、其ノ他ノ都市ニ於テハ全市ニ亘ッテ資料ヲ得タ。

會社員トシテハ東京都ニ於テ帝國生命保険株式會社員及ビ安田生命保険會社員、又大阪ニ於テハ日本生命保険會社員デアル。鉄道職員トシテハ、札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、廣島及ビ門司ノ

八鉄道局勤務ノ事務員デアル。

対象ノ性ハ何レモ男子ノミデアル。

対象ノ年令ハ昭和十八年ノ体重測定時ニ於テ、大多数ハ二〇歳ヨリ五〇歳迄ノ者デアルガ、職種ニ依リ、其ノ年令分布ニ多少ノ差ガアル。即チ対象タル會社員ノ年令ハ二〇ー二九歳ノ若年者ガ比較的多イガ、國民學校教員ハ男子一五六二名、女子七七二名計二三二四名デアリ、會社員ハ男子二九一名、女子二八三名、計五七四名、又鉄道職員ハ男子七九一名デアル。之等対象ノ性別、年令別及ビ地域別員数ハ次表ノ如クデアル。

第1表　國民學校教員ノ性別地域別員數

地域別	男	女	計
札幌市	199	56	255
仙台市	161	95	256
金沢市	179	103	282
東京都	171	80	251
名古屋市	312	136	448
大阪市	113	29	142
廣島市	277	122	399
福岡市	150	151	301
計	1562	772	2334

國民學校教員ニ就テハ同一學校ニ五年間勤續者ヲ各都市ニ於テ全校ニ亘リ求メタガ、東京都ト大阪市トハ山手地區ニ於テ一校、下町地區ニ於テ一校ヲ選擇シタ。

（東京都ー京橋區及麹町區，大阪市ー東區及ビ北區）

第2表　鐵道職員ノ性別地域別員數

地域別	員數（男子）
札幌鐵道局	97
仙台〃	99
新潟〃	99
東京〃	99
名古屋〃	99
大阪〃	100
廣島〃	99
門司〃	98
計〃	791

第3表

地域別	男	女	計
東京都	160	160	320
大阪市	131	123	254
計	291	283	574

第4表

都市給料生活者職種別年令階級別体重

職種別	性別	年令階級			
		-19			
教員	男	一			
	女	一			
	計	二			
官公吏	男	一			
	女	56			
	計	59			
鉄道職員	男	一			
	女	一			
	計	一	22	477	296

三、調査方法

本調査ニ於テハ第一回調査ト同様栄養状態ノ判定トシテ体重ヲ採リ、各対象ノ職場ニ於テ昭和十四年ヨリ十八年九月末日マデニ五年間勤続セル者ノミニ就テ其ノ体重ヲ測定セル資料ヲ取扱ツタ。併シテ先ヅ体重ノ各年次ノ平均値ニ就テ年次的推移ヲ、職種別、地域別、性別、並ニ年令ノ階級別ニ観察シ、次デ之ガ綜合的検討ヲ行ツタ。

体重ノ検討ハ各年次ニ就テ之ヲ行ツタガ、更ニ昭和十四年ノモノト昭和十八年ノモノトニ就テノ比較ヲモ行ヒ、最近五年間ニ於ケル都市給料生活者ノ体重ノ推移ヲ観ヒ知ツタ。

第一項　性別ニ觀タル都市給料生活者体重ノ年次的推移

性別ノ資料ノ得ラレタルハ、國民學校教員及ビ會社員トデアル。職種ニ依リ性別ノ年令分布ガ異ルノデ、男女ニ於テ年令階級ヲ同一ニ區分シ難イノデ、性別ノ体重ノ年次的推移ヲ比較スルニ當リ二〇ー二九歳階級ハ男女同一階級ニ於テ行ヒ、又男子ノ三〇ー三九歳ト女子ノ三〇歳以上トニ就テ比較シタ。

(イ)年令二〇ー二九歳

國民學校教員ニ在リテハ、体重ハ年次毎ニ順次減少シ、十四年ー五七、〇六瓩ハ十八年ニハ五六、四〇瓩トナリ、其ノ差ハ〇、六六瓩デアツテ少率ハ一、一%デアル。女子ハ年次的ニ多少ノ増減ガアツテ、十八年ハ十四年ノモノヨリモ僅カニ〇、〇六瓩ノ減少ニ過ギナイ。

會社員ニ於テハ、男子ハ年次的ニ順次減少シテ十八年ノモノハ十四年ノモノヨリモ一、五六瓩減少シ、其ノ減少率ハ二、九%デアル。又女子ハ年次的ニ多少ノ増減ヲ示シ結局十八年ノモノハ十四年ノモノヨリ〇、五瓩ノ増加ヲ示シテヰル。

(ロ)年令階級男子三〇ー三九歳、女子三〇歳以上

國民學校教員男子ニ於テハ、十四年ヨリ十八年ヘト順次減少シ、其ノ差ハ一、四瓩デアツテ、二、四%ノ減少率デアル。女子ハ年令三〇歳以上ノ階級ニ於テハ年次的ニ差異ヲ認メ、十八年ノモノハ十四年ノモノヨリ僅カニ一、一瓩減少スル。

會社員ニ在リテハ、三〇ー三九歳年令階級ノ男子ハ年次的ニ順次減